



ひらの光一



くさかみやや



わたべ和子



武藤みつほ



やざわ英雄

市政へのご意見、ご要望をお寄せください。



発行：日本共産党柏市議会議員団 柏市増尾台1-2-16 ☎7176・3711 FAX.7176・3716

# 「住民が主人公」の柏市へ

## 太田かずみ市長を支え、市民の願い実現にがんばります

いよいよ  
スタート

### 住民自治と地域循環の「ふるさと」に

延吉悦子さん（柏民主商工会会長）

「ふるさと」というコトバには十人十色の多様な想いがあることでしょう。太田かずみさんは選挙中「柏は私のふるさとです——こどもたちが将来自信をもってそう言えるように、柏をもっとやさしいまちにしませんか」と呼びかけました。

田中村・土村・富勢村・柏町が合併して東葛市、さらに柏市へ。そして多くの「新住民」が移住してきて、近郊農業も盛んな現在の柏があります。

太田かずみ市長のもとで、地域資源を活かした《住み続けられるまちづくり》を、住民と行政がともに考えていける市政になったら、と思っています。

たとえば学校給食での地場産品の活用。柏産の新鮮なものが使えるうえ、給食費を市内の生産者に還元できるし、食育にもなります。さらに「住宅リフォームや店舗等を対象にした助成制度」を創設したり、農業生産者と商工業者が協力して6次産業化に取り組んだりすれば、業者も住民も地域も元気になる経済の好循環が生まれます。

地域同士・住民同士が互いの力を補完しあうネットワークを構築し、多様な価値観が尊重される住民自治の街、地域循環型の先進的なふるさと・柏市づくりに取り組んでほしいと願っています。

# 太田市長に期待します。



当選証書をもって共産党市議団に支援のお礼にこられた太田かずみさん。左は渡部和子市議団長

市長選で当選した太田かずみ新市長は、11月22日に初登庁しいよいよ市長としての仕事が始まります。

## 太田さん、公約実現の検討を 担当部局へ指示

太田新市長はすでに、掲げた公約の実現に向けて担当する各部局に指示を出し、課題・予算・スケジュールなどの検討が始まっています。29日に開会する市議会の所信表明演説で、太田新市長がめざす新しい柏市の方向

と主な公約の実現への決意が示されます。今回の市長選挙で太田候補支援の立場を明確にした現職の市議は、35人（欠員1）のうち11人。この市議会の力関係のなかで、太田新市長が堂々と公約を実現していくためには、市民の声と運動が欠かせません。日本共産党は議会の内外で太田市長を支え頑張ります。

### 各分野からの談話 2面につづく

## 保守会派が勢力拡大 浜田、佐藤両議員が「清風」入り

「太田さん当選・前市長後継候補落選」という市長選挙の結果を受け、市議会の保守最大会派・柏清風の勢力拡大の動きが活発化しています。

11月17日までに、前回市議選に立憲民主党公認でトップで初当選した浜田智香子議員が党と会派（みらい民主）を離れ、維新の佐藤浩議員（柏愛）とともに清風入りしました。他の複数の無所属議員にも働きかけが行われています。

清風は浜田、佐藤両氏を加え現在14人。清風と公明（7人）で在籍議員数の6割を占めます。太田新市長の公約実現の取り組みや議会運営に対して、数を背景に圧力を強めてくるとみられます。議会の動きを広範な市民に伝えることと、市民による議会監視がますます重要になります。

## コロナ禍のもと黒字49億円 柏市決算「貯金」も117億円残す

柏市の2020年度決算が示され、市議会では決算審査特別委員会が行われてきました。

20年度は新型コロナウイルス対策に全力で取り組むことが求められた年でしたが、「不測の事態」に備えて蓄えている財政調整基

金を117億円残し、さらに一般会計で49億円の黒字を出しました。特別定額給付金を除く新型コロナウイルス対策には73億円使っていますが、そのほとんどは国や県から交付され、市の持ち出しはわずか9億円でした。

## 補正予算の組替え 清風・公明が否決

9月議会では、ワクチン接種など新型コロナウイルス対策を中心とした42億円の補正予算が組まれました。

日本共産党などは柏市独自の対策が不十分だと

して、児童生徒・教職員の定期的な抗原検査費用、保健師等のさらなる補充のための費用を追加する組み替え提案を行いました。組み替え提案は柏清風（自民党系）と公明

党などの議員の反対で否決されました。賛成は13人でした。



来年度から国民健康保険料の未就学児の均等割額が半額に減免される国の制度が始まります。全国知事会や多くの市民団体、日本共産党などが求めてきたことであり一歩前進です。

柏市の子ども均等割額は一人3万6600円。減免制度が適用されると、未就学の子供が2人いる4人家族で、所得300万円のケースで3万6600円の減額、所得200万円のケースで2万9400円の減額になります。

全国では、独自に均等割減免を実施している自治体が広がっています。柏市でも減免の対象を広げるなど子育て支援としての対策が求められています。

### 生理用品の学校トイレ常備、試験的に実施へ

6月議会に続き、生理用品を小中学校のトイレに常備することを求めました。6月議会では「自分で使うものは自分で。学校に配備するとあてにして大量に消費する」という驚くべき答弁でしたが、9月議会では「先進事例を参考に、理解が得られた学校で試験的に実施することを検討」という前向きな答弁がありました。「トイレトペーパーと同じように生理用品をトイレに」の声を広げましょう。

### 自校給食を守りひろげる署名、9386筆に

今議会も子どもたちのために、自校方式の学校給食を守りひろげることを求める質問が相次ぎました。学校給食の判断基準は「子どもたちにとってどんな給食が一番か」です。「子どもたちにとって、安全・安心、おいしく楽しみの多い給食は、自校方式かセンター方式か」という質問に対し、市は明確な答弁ができません。それは自校方式に勝るものはないからです。

2008年第1回定例会の「教育行政方針」で「沼南地域の小学校の給食は自校方式にする」と発表したものが、どこで変更されたのかとの質問にも「保存期限が過ぎて資料がない」「聞き取りをしたが会議は確認できなかった」と回答。議会や市民への約束が知らないうちに勝手に変えられる市政を許すわけにはいきません。

「自校給食を守りひろげることを求める署名」9386筆が市長に届けられています。財政支出を減らすために、子どもたちの給食を切り捨てるような市政は、力を合わせて変えていきましょう。

## 未就学児の国保料減額、来年度から

### リフォーム助成で地域を元気に

竹内伸之さん

(日本共産党建設後援会)



私は柏市で大工をしています。公共工事の設計労務単価は引き上げられているのに、まだまだ私たち町場で働く中小零細建設業者までは賃金引き上げが行き届かず、暮らしは大変厳しくなっています。

さらにコロナ禍によって、中小零細事業者は売り上げが大きく減少し事業の縮小を余儀なくされ、労働者も雇い切りや賃金カットなど生活水準の低下を招いています。

住宅のリフォームは、住民の住生活・住環境の向上をもたらす、地元の建設、リフォーム事業者の受注機会を拡大するだけでなく、リフォーム工事に伴う建材や家具・電化製品の購入などで地域経済や雇用創出に大きな効果があり、厳しい状況にある地域経済を活性化させる一助として大変有効です。全国600自治体、県内でも過半数の市町村で実現している住宅リフォーム助成制度の創設を太田市長に期待しています。

### 子ども・平和、活躍を期待

池島美智子さん

(新日本婦人の会事務局長)



新日本婦人の会柏支部は明るい民主市政をつくる柏市民の会に参加していて、選挙前に太田さんと懇談もしました。

私たちの切実な要求に、熱い思いを抑えながら丁寧にキッチリと語る太田さんに、とても好感を持ちました。16項目の政策合意の中で、子どもの医療費無料化は、新婦人も50年以上取り組み「高校生まで、そして窓口無料化に」と願うものです。

新婦人は5つの目的の1つに「核戦争の危険から女性と子どもの命を守ります」を掲げ、平和のための活動もしています。3月の柏市議会で「(核兵器禁止条約)締約国会議への日本政府のオブザーバー参加を求める要請」が全会派全議員の賛成で採択されたのに、秋山市長のもとでは動きはありませんでした。核兵器廃絶・平和の分野でも太田新市長の活躍を期待しています。



日本共産党の「気候危機を打開する 2030 戦略」のリーフレット

電力の50%をまかなうことを提案しています。

4割減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

ルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

め、30年に石炭火力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

60%削減するた、30年に石炭火力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

を10年度比で50%削減するた、30年に石炭火力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

酸化炭素の排出量を10年度比で50%削減するた、30年に石炭火力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。

### 太田市長は子どもたちの味方

前田伊都子さん

(学校給食の自校方式を守りひろげる柏市民の会)



11月1日の早朝、携帯に「太田かずみ当選！」のメールが入りました。「信じられない！まさか！」今まで支持した候補者が当選するという経験を持っていない私は驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。

思えば、昨年の12月に学校給食のセンター化の計画を知ってから、柏市政のおかしさと矛盾をずっと感じてきました。子どもたちの給食を単なるコスト削減の対象にする市長が許せないと思っていました。

センター化を見直すと主張している太田市長は、子どもたちの味方になってくれる人だと思います。食育というものをしっかりと受け止めて、今後の柏市の自校給食を守り、広げて下さると大いに期待しています。

### コミバスも走る「ふるさと柏」に

遠藤利夫さん

(100円コミバスを走らせる会)



2017年に高齢者の足の確保を目的に「柏に100円コミバスを走らせる会」ができて、仲間といっしょに交通政策課と何回も話し合いを持ち、市議会に請願も出してきました。

一度は実証実験の案ができたこともありましたが、とうとう3期12年の秋山市政では実現することができませんでした。コミバスが走っていないのは周辺では柏市だけです。市の担当者に「あなた方に郷土愛はないのか」と迫ったこともありました。

今回の市長選で太田さんが最初に市民に呼びかけたのは、「柏は、あなたと私のふるさとです」という言葉でした。私はこの心だと感動しました。私は太田さんの倍以上の年齢ですが、今度の市長選では年も考えず仲間といっしょに夜の駅頭にも立ちました。新市長とともに新しい「ふるさと」づくり、コミュニティバス実現に頑張りたいと思います。

### 気候危機打開に後ろ向き

清風・公明など市民の請願を否決

9月議会に市民団体から「石炭火力発電を廃止し、再生可能エネルギー発電割合を2030年までに48%以上を目指し、50年度までに100%を」等の政府への意見書提出を求める請願が提出されましたが、柏清風と公明党などの反対で不採択になりました。日本政府にならって、柏市議会の自民党・公明党も人類にとっての緊急課題である気候危機打開に後ろ向きの姿勢だということに明らかになりました。

日本共産党は「気候危機を打開する日本共産党の2030戦略」で30年度までに二酸化炭素の排出量を10年度比で50%削減するた、30年に石炭火力発電をゼロにし、省エネでエネルギーの消費量を削減、再エネで電力の50%をまかなうことを提案しています。